

# 1 「青天の霹靂」の安定生産と食味のレベルアップ

～「生産指導カルテ」と「青天ナビ」を活用した重点指導活動～

## 【概要】

- 東青地域「青天の霹靂」生産指導プロジェクトチームが生産者や関係機関と情報共有し、各生産者が生産目標を達成できるように個別指導を通して、生産者の生産意欲向上と安定生産を目指した。

## 【背景・課題】

- 全生産者の出荷データを分析する中で、生産目標を下回る生産者が固定化していることが分かった。そこで、生産者全員に栽培ポイントを示した「生産者カルテ」の配布と、生産目標を下回った生産者への個別指導を実施。各ほ場ごとの特徴を吟味した栽培方法の改善、気象変動に対応した栽培管理ができるように個別指導する必要があった。

## 【普及指導活動の内容】

- 東青地域「青天の霹靂」生産指導プロジェクトチームを通して、各関係機関と連携を強化するための連絡会議を開催し、今年度行う活動内容を決定し意識統一を図った。
- チーム員の追肥指導に当たっての技術統一と今年の管内の生育状況の情報共有のための現地検討会を開催した。検討会終了後、チーム員で各生産者に対して、幼穂形成期以降の栽培管理について指導した。
- 育苗期、追肥時期、稲刈時期に講習会を開催し、各ほ場に応じた栽培管理について指導した。

## 【成果】

- 玄米タンパク質含有率6.4%以下（出荷基準）の達成者は98%となった。
- 生産目標のうち玄米タンパク質含有率6.0%以下の達成者は62%となった。

## 【対象者】

青森農協「青天の霹靂」生産者部会（43名）、青森県米穀集荷協同組合「青天の霹靂」作付生産者部会（3名）、(株)KAWACHO RICE（7名）



東青地域「青天の霹靂」・「はれわたり」プロジェクトチームの現地検討会（7/8）



東青地域「青天の霹靂」・「はれわたり」プロジェクトチーム良食味生産対策会（3/20）

## 2 トマト指定産地の生産力向上

～省力的な誘引方法の導入支援と新規作付者の育成支援～

### 【概要】

- 省力・低コスト化に有効な2本仕立てUターン誘引栽培や自動かん水システムの導入支援を行った。
- また、新規作付者や栽培歴の浅い農業者に対しては、主に個別巡回により就農後の経営安定化に向けた技術支援を実施した。
- さらに、トマト・ミニトマトとも品種の切り替えが進む中、その特性に応じた管理方法を指導した。

### 【背景・課題】

- 管内のトマトは、高齢化や労働力不足等により栽培面積が減少している。一方ミニトマトは1戸当たりの栽培面積が増加傾向にあり、どちらも省力・低コスト化が課題となっている。
- ミニトマトは新規作付者が増加しており、栽培者間での技術のバラツキが見られる。
- トマト・ミニトマトとも品種の切替えが進んでいるが、新たな導入品種の特性に応じた技術の習得が課題となっている。

### 【普及指導活動の内容】

- 2本仕立てUターン誘引栽培のほ場で栽培講習会を行ったほか、冬期講習会で高温対策等について指導した。
- 自動かん水システム新規導入者や導入歴の浅い生産者に対して個別巡回を実施し、機器運用や保守管理について指導するとともに、システム既導入の先進農業者を講師とした研修会を開催し、効果的な活用方法について指導した。
- トマトでは「りんか409」、ミニトマトでは斑点病耐病性品種「サマー千果」を栽培する生産者が増加したため種苗メーカーと連携し品種特性に応じた栽培管理方法について指導した。

### 【成果】

- 令和4年度の2本仕立てUターン誘引栽培の導入戸数は26戸となった。
- 令和4年度の自動かん水システムの導入戸数は13戸となった。
- 導入品種の特性に応じた管理方法の理解が深まった。

### 【対象者】

青森農協トマト部会（85名）  
青森農協ミニトマト部会（28名）



農業者を講師とした研修会



種苗メーカー担当者と収穫時着色管理を確認



冬季講習会における高温対策の指導

### 3 活力ある農山漁村づくりを目指した女性起業活動の推進 ～農山漁村女性の意欲を生かした地域課題解決～

#### 【概要】

- 現地巡回や聞き取り調査等により、農山漁村女性による起業の活動状況や課題を整理した。
- 課題解決に向けて、事業の活用や個別指導等に取り組み、女性起業の経営力向上を図った。

#### 【背景・課題】

- ベテランの起業組織の中には、食を生かした地域貢献活動に興味を示したり、将来を見据えて、地域の若手女性農業者等に加工技術や事業の継承を望む組織も現れてきている。
- 新規就農者の若手女性の中に、農業経営の一環として、起業活動に関心を示す人が増えてきている。
- 活力ある農山漁村づくりを実現するためには、これらの意欲ある女性農業者に対して、段階に応じた支援を行い、起業活動の充実強化を行う必要がある。

#### 【普及指導活動の内容】

- 郷土料理の伝承に関心を持っていた、平内町「グランマの会」に対し、「食」に関する地域活動についての働きかけを行った結果、県事業を活用しモデル実証に取り組んだ。
- 若手女性1名が加工活動の継承に意欲を示したため、先輩起業家とのマッチングを行った。
- 起業活動に関心を持つ若手女性に個別指導を行った結果、新規就農者2名が県事業を活用して乾燥野菜や野菜を使った菓子などの新商品開発に取り組んだ。

#### 【成果】

- 平内町の女性組織は、郷土料理のリストアップとレシピ集の作成、消費者交流会（3回）の開催等により、地域での伝承につながった。
- 若手女性と起業組織の意向を踏まえたマッチングと専門家による講座を開催した結果、事業継承に向けた方向性が確認できた。
- 若手女性2名が県事業を活用し、野菜パウダー、野菜入り菓子を商品化できた。

#### 【対象者】

農山漁村女性（34起業）  
若手女性農業者（35名）



県事業で導入した食品乾燥機



郷土料理のリストアップ会議



専門家による事業継承講座

## 4 サポート体制の強化による新規就農者の経営力向上

### 【概要】

- 非農家出身の新規就農者等が多い東青管内において、新規就農者が農業を生業として地域に定着できるよう、経営者として必要な知識の早期習得と東青地域の主要品目を主体とした所得確保に向けて、支援を強化する。

### 【背景・課題】

- 非農家出身者は、生産基盤の脆弱さ、農業経営に対する考えの甘さ等から所得確保に苦戦している。
- 就農希望者に対しては、経営者としての心構えや就農に向けた助言環境の整備が必要となっている。
- 就農支援体制を強化するとともに就農希望者の能力向上が必要となっている。

### 【普及指導活動の内容】

- 新規就農者の能力向上に向け、りんご、ミニトマトの指導拠点ほを設置し、栽培対策講座の開催のほか、新規就農者による先進地調査報告会、商品開発をテーマとした研修会及び相談会等を開催した。
- 農業青年を対象にスマート農機実演会等のニューファーマー育成講座を開催したほか、随時、就農相談対応や補助事業の活用を支援した。
- サポート体制の強化に向けて、関係機関等を参集した「東青地域新規就農支援会議」を開催したほか、研修受入農家等を対象にコーチング技術等向上研修会を開催した。また、受入農家をリストアップをした。
- 就農希望者を対象に営農計画や生活設計の立案方法等の習得を目的とした農業総合セミナーを開催した。

### 【成果】

- 新規就農者の栽培技術の向上や知識の習得、仲間づくりが推進された。
- 関係機関等が一体感を持って支援を行う体制が整った。
- 研修受入農家等の就農希望者とのコミュニケーション能力向上が図られた。

### 【対象者】

- 就農希望者（農業次世代人材投資資金（準備型）交付者6名等）
- 新規就農者（農業次世代人材投資資金（経営開始型）交付者51名等）



指導拠点ほで説明を聞く新規就農者



コーチング研修会で意見発表する参加者



自動操舵トラクタの実演会